コセルゴに迅速導入加算

報告品目14成分を薬価収載

厚生労働省はきょう12日、薬事審議会医薬品部会の報告品目と新キット製品14成分22品目を薬価基準に収載する。内用薬は神経線維腫症1型治療剤「コセルゴ」の剤形追加など3成分5品目、注射薬は抗癌剤「ビロイ」の剤形追加など11成分17品目。今回は外用薬の収載はなかった。

厚労省

▽**コセルゴ顆粒5㎎、同顆粒7・5㎎**（セルメチニブ硫酸塩、アレクシオンファーマ）：既存のカプセル剤に顆粒を剤形追加し、類似薬効比較方式Ⅰで算定した金額に、小児加算5％、迅速導入加算5％を適用した。

▽**ヒフデュラ配合皮下注シリンジ**（エフガルチギモドアルファ／ボルヒアルロニダーゼアルファ、アルジェニクスジャパン）：既存のバイアル製剤にシリンジ製剤を追加し、類似薬効比較方式Ⅰで算定した金額に、市場性加算Ⅰ10％を付けた。

▽**ビロイ点滴静注用300㎎**（ゾルベツキシマブ、アステラス製薬）：既存の静注用100㎎に300㎎を追加し、規格間調整で算定した。既存薬が費用対効果評価の対象であるため、類似品目として（H5区分）同様に費用対効果評価の対象となり、今回の算定薬価に反映された。

▽**アウィクリ注フレックスタッチ総量700単位**（インスリンイコデク、ノボノルディスクファーマ）：既存の300単位に700単位を追加し、規格間調整、キット算定で算定した。

▽**オータイロカプセル160㎎**（レポトレクチニブ、ブリストル・マイヤーズスクイブ）：既存の40㎎に160㎎を追加し、規格間調整で算定した。

▽**レットヴィモ錠40㎎、同錠80㎎**（セルペルカチニブ、日本イーライリリー）：既存のカプセル剤に錠剤を剤形追加し、別の銘柄としての薬価算定は行わなかった。

▽**スピンラザ髄注28㎎、同髄注50㎎**（ヌシネルセンナトリウム、バイオジェン・ジャパン）：既存の用量より高用量を剤形追加し、規格間調整で算定した。

▽**アフリベルセプトBS硝子体内注射液40㎎／mL「NIT」、同注射用キット40㎎／mL「NIT」**（アフリベルセプト、富士製薬）：バイエル薬品の「アイリーア」のバイオ後続品で、類似薬効比較方式Ⅰで算定した。

▽**クリースビータ皮下注10㎎シリンジ、同20㎎、同30㎎**（ブロスマブ、協和キリン）：既存のバイアル製剤にシリンジ製剤を追加し、規格間調整とキット算定で算定した。

▽**ルミセフ皮下注210㎎ペン**（ブロダルマブ、協和キリン）：既存のシリンジ製剤にペンを追加し、規格間調整とキット算定で算定した。

▽**タクザイロ皮下注300㎎ペン**（ラナデルマブ、武田薬品）：既存のシリンジ製剤にペンを追加し、規格間調整で算定した。

▽**デュピクセント皮下注200㎎ペン**（デュピルマブ、サノフィ）：既存のシリンジ製剤にペンを追加し、規格間調整とキット算定で算定した。

▽**トシリズマブBS点滴静注80㎎「CT」、同200㎎、同400㎎**（トシリズマブ、セルトリオン・ヘルスケア・ジャパン）：中外製薬の「アクテムラ」のバイオ後続品で、類似薬効比較方式Ⅰで算定した。

▽**リスティーゴ皮下注420㎎**（ロザノリキシズマブ、ユーシービージャパン）：既存の280㎎に420㎎を追加し、規格間調整で算定した。

フォーミュラリで実施要件

診療報酬上の評価想定

フォーミュラリ学会 今井理事長

日本フォーミュラリ学会の今井博久理事長は9日、横浜市内で開かれた学術総会で、今後地域フォーミュラリに関する診療報酬上の評価が行われると想定し、算定を受けられる薬局の実施要件について見解を語った。

実施しているフォーミュラリの「薬効群数・実施期間・更新・医薬品の明示公開」「行政との連携」などを要件に、二つ以上の薬効群、実施開始から原則6カ月以上、必要に応じて更新していることなどを満たしておくべきとした。

今井氏は、8日時点で全国で地域フォーミュラリを実施または準備中の件数が計48件との実態調査を公表。フォーミュラリのリストが存在している状態を「実施」、関係者の意思表示があり準備を進めている状態を「準備中」とし、実施は25件、準備中は23件に上り、「年度内には、50以上の地域で実施または準備中が示されるだろう」と語った。

その上で、地域フォーミュラリ浸透に向けた政府の施策に言及。骨太方針でフォーミュラリの普及促進策が明記されたことを受け、「フォーミュラリ運用の定義を広める基礎理論は完了し、全国に普及させる第2フェーズに入った」との見解を示した。

5日の財政制度等審議会財政制度分科会で、調剤報酬の地域支援体制加算の評価対象に「地域フォーミュラリへの参画」が記載されたことについても「学会と財務省の考えは同一で、ポジティブに捉えたい」と評価した。

また、今井氏は、「今後はタイミングを見て普及させるため、診療報酬上の点数により評価を実施するだろう」との見方を示す一方、「評価する前にそもそもフォーミュラリを実施しているとはどのような状況を指すのか。不適切な実施が横行すれば達成できない」と指摘。「フォーミュラリを実施していること」を満たす要件について学会で検討し、公表することにした。

要件は、▽薬効群数・実施期間・更新・医薬品の明示公開▽行政との連携▽委員会の委員構成▽運営の組織設置と利益相反（COI）など――で構成。二つ以上の薬効群からなるフォーミュラリがあること、フォーミュラリ実施開始から原則として6カ月間以上経過しており必要に応じて更新していること、地域医師会・薬剤師会のホームページで医薬品を明示していることとした。

明示する医薬品は、可能な限り推奨された医薬品の臨床的・経済的根拠を示すよう求め、学会等の診療ガイドラインやモデルフォーミュラリを参考にすることが良いとした。地域の行政、保険者と連携していること、都道府県の国民健康保険課や薬務課等にフォーミュラリを実施していることを伝えていることも望ましいとした。

研究交流促進へ連携協定

薬用植物栽培化に参画

昭和薬大、牧野植物園

昭和薬科大学と高知県立牧野植物園は、研究・教育の交流促進等を目的とした連携協定を締結した。薬用植物の栽培化に関する研究等に双方の研究者が参画するほか、植物の栽培方法に関する情報交換や種苗交換を通じ、植栽の充実を図る。

今回の協定締結により、研究者が参画することで、植物資源のインベントリー（目録）、応用、持続的有効活用にわたる幅広い研究分野の研究を推進。また、牧野植物園が保有する植物エキスのコレクションであるエキスライブラリーのさらなる活用にも取り組む。

植物栽培担当職員の交流も進め、栽培方法等に関する情報交換を行い、スキルアップを図るほか、種苗交換も行うことで双方の植栽を充実させる。

牧野植物園で実施している植物教室やキッズラボにしてきた。

昭和薬大は、「薬学は総合学問で、双方で連携することで植物園が保有する有用植物資源の活用を含め、新たな共同研究の展開が期待される」としている。

連携協定締結式の様子

昭和薬大の教員を講師として派遣し、新規テーマでの教育普及プログラムを行う一方、牧野植物園も昭和薬大に研究スタッフを派遣し、公開講座等を行う。

牧野植物園は、「日本の植物分類学の父」と呼ばれる牧野富太郎博士の業績を顕彰して1958年に高知市に開園した施設で、県内の野生植物の調査・収集・保全に取り組み、海外でもミャンマーを中心に植物多様性の解明や資源植物の探査を行っている。

4月に園長に赴任した高野昭人氏は3月まで33年間昭和薬大に在職し、薬用植物園の管理運営を担いつつ、学内外で植物に関する海外調査や共同研究を実施

「薬剤師さんって、こんなことも知っているの!?」暮らしの疑問に、“薬学”で答える

医薬品や日用品についての不安や疑問。
そんな悩みを、薬学の観点から解決するのが
〝生活薬学〟です。
本書では、さまざまな生活用品（日焼け止め、シャンプー、消毒剤など）のしくみや知識の他、生活環境やセルフメディケーションについての知識を薬学的知見で解説しています。
日常生活を送る上で、「知っておきたい」情報がここにあります。

■ 本書は電子版も発売中です。

暮らしにいかす
生活薬学
医薬品、日用品、生活環境等のヘルスリテラシー向上BOOK

【監修】亀井 美和子、狭間 研至
【著者】藤田 知子、三上 由美、宮原 富士子
若林 由香子、脇田 絵美
A5判/520頁/定価4,950円（本体4,500円＋税）

薬事日報社　書籍の詳細・ご注文はオンラインショップ（https://yakuji-shop.jp/）、またはQRコードから

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/